今年も固定資産税の納付書が郵送されてきた。例年この時期になると税について考えさせられる。自動車税についてである。

自動車税は、固定資産税や償却資産税と同様に財産税である。しかし固定資産税や償却資産税が時の経過とともに評価額が下落し（土地のように上昇するものもある）税額も安くなっていくのが一般的であるのに対し、自動車税は毎年定額である。さらに「自動車税のグリーン化」とかで、新車登録から一定年数を経過した（ガソリン車は 13 年）環境負荷の大きい自動車は税率が重くなり、10%程度税金が高くなる。

自動車税が定額であるということは、自動車を 3 年で買い替えようが 10 年後に買い替えようが税金面では同じである。私はこの点が納得いかない。

最近の自動車は技術革新のおかげで、普通のサラリーマン家庭であれば、10 年どころか 15 年は十分使用に耐えられる。あらゆる資源を海外に依存している日本にとって、貴重な資源やエネルギーを投入し、また生産過程において CO を排出して出来上がった車であるので、大切に永く使用するのは当然である。

したがって、税制面でも車を大切に長期間使用した者を優遇すべきではと考える。たとえば初年度 10 万円、2 年目 8 万円、3 年目 6 万円・・・・と逓減していき、10 年目以降は、資産価値も殆どないので 0 円とするなど。

これに伴い自動車の生産（販売）台数は減少するが、昨今いわれている資源の有効活用、省エネルギー、CO 排出の削減に大きく寄与することとなる。

肝心なことは、自動車に限らずあらゆるものを、大事に永く使用することであると思うのだが。